

# 「学力向上ポートフォリオ(徳力小学校版)」

## 学力向上目標

児童に対して、

○基礎学力を定着させる。

・算数の自校テストで「知識・技能」に関する平均正答率を1学期比105%以上にする。

○思考力・判断力・表現力を高める。

・算数の自校テストで「思考力・判断力・表現力」に関する平均正答率を1学期比105%以上にする。

○主体的に学習に取り組む態度を涵養する。

・さいたま市学習状況調査【学習に関する関心・意欲・態度】における「算数の勉強は好きですか。」の肯定的な回答の割合を令和2年度より2pt以上向上させる。

## 具体的な手立て

①一人ひとりの課題に合った学習プリントを朝学習や授業内で活用する。

②「ドリルパーク」に繰り返し、取り組む。

③算数において、学習の流れを統一し、見通しをもって学習できるようにするなど、授業のユニバーサルデザイン化を図る。

④一人1台端末を活用した児童主体の「さいたま市『アクティブ・ラーニング』授業」を行う。

⑤一人1台端末を活用し、思考を可視化し、互いに考えを伝え合うことで、比較・検討する協働的な学びの場を設定する。

## 結果

①児童の基礎学力、思考力・判断力・表現力の向上をねらい、その指標として、各項目の1学期比105%を目標値とした。結果、全学年の平均として114%比で点数を向上させることができた。

②算数の興味・関心を高めることをねらい、授業改善を図ってきた。結果として、令和2年度より、さいたま市学習状況調査において、2pt以上の向上を目指したところ、5.5pt向上させることができ、目標を達成することができた。

## 今年度の振り返り・次年度に向けて

○授業の中で、「ドリルパーク」に取り組みせることで、基礎学力向上またはその維持につなげることができた。

○一人1台端末を活用し、思考を可視化し、友達の考えを伝え合う活動を意図的に組むことが、協働的な学びにつなげることができた。

○教員は、「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を参考に、児童が主体的・対話的な授業を積極的にデザインすることができたことが学習への意欲向上につながったと考えられる。

○次年度は、「スタディ・サプリ」等の活用方法を研究し、さらに個別最適な学びを深め、児童の主体的な学習へとつなげていきたい。